

復興いわき海の俳句全国大会 第5回大会はコロナウイルス感染防止の観点から事前投句の開催のみとなりました。事前投句は1288句(644組)でした。

事前投句選者(50音順)

石 寒太先生、小川晴子先生、鈴木正治先生、水内慶太先生、森川光郎先生

事前投句の受賞句および各選者の選

大賞

ヨツト行く海一枚を切り分けて

赤松曙子

東京都板橋区

準賞

満月は勿来の海に生まれけり

齋藤 稔

栃木県矢板市

門火焚く海より父の帰る

持田敏朗

神奈川県横浜市

総身にいわきの息吹卯波立つ

佐藤瑛子

福島県いわき市

釣人に七尺の黙南風吹く

伊藤豊美

東京都中央区

天道虫背に一点の光載せ

高木俊明

福島県いわき市

石寒太先生選

海の俳句 特選

門火焚く海より父の帰る

持田敏朗

神奈川県横浜市

海鳴りや戦後七十五年夏

紺野洋子

福島県いわき市

原発の海遠き日の綺羅の夏

宮崎温子

神奈川県横浜市

海の俳句 入選

九年目の海静かなり鳥帰る

佐藤次男

福島県郡山市

砂浜にガンバレの文字春の潮

中西昭子

東京都新宿区

風光る再開通の海の駅

伊藤真知子

福島県郡山市

菜の花や空母静かに出港す

石の森市朗

宮城県石巻市

嵩上げの堤防に春惜しみけり

橋本研二

福島県田村市

海溝の闇の深さよ三月来

渡辺 彰

茨城県北茨城市

潮鳴りや人は寡黙に昆布干す

松川洋酔

東京都杉並区

三陸鉄道全線復旧風光る

木村繁子

福島県須賀川市

廃線の向うは海や鳥曇

吉田七重

東京都東久留米市

海の日や実習船に万国旗

飛田キミ子

茨城県北茨城市

三・一一今日は穏やか春の海

渡邊公之

栃木県宇都宮市

黙禱す三月の海の波高し

新妻洋子

福島県いわき市

総身にいわきの息吹卯波立つ

佐藤瑛子

福島県いわき市

沖をゆくタンカー八月十五日

内田郁代

千葉県柏市

メヒカリを買ふ三寒の四温かな

松井恭子

神奈川県二宮町

海竜の生まれし海や遠泳す

武藤主明

福島県会津若松市

海を見に西瓜畑を通り抜け

宮崎浩美

石川県金沢市

本閉ぢてより短夜の波の音

中條睦子

石川県金沢市

恋猫や母待つ島の船着場

原 道代

香川県高松市

千枚の代田育み海の風

浅田正文

石川県金沢市

自由句 特選

マスク越し目と目で語る桜道

高橋幸子

岩手県北上市

炎天に水供へあり軍馬の碑

中山雅弘

福島県いわき市

予定表埋まらぬままの五月かな

平田 栄

福島県いわき市

自由句 入選

直井照男

岐阜県高山市

クレーンの働く空や鳥渡る
割烹着の紐しめ直す真砂女の忌
たんぽぽの野に七半の来て止まる
おかえりと母の声する夏カレー
榎の実の一つに匂ふ旅鞆
遺骨無き三月十一日の墓
日溜まりを紫に染め仏の座
これが恋採りたてとまとのやふな君
風船や復興祝ふ駅ホーム
八重桜六角堂へ向ふ道
湯浴みする赤子のこぶし合歓の花
噴水を浴びて真昼の鴉かな
言ひかけし言葉呑み込む螢の夜
靴跡の歪んで残る春の土
天道虫背に一点の光載せ
黒板に残る伝言花は葉に
付き添ひはできぬ術後や夏に入る
川面より低き町並十三夜
牡丹散る通院のみの予定表
草木染めの機織る音や聖五月

長島久江
江藤文子
館健一郎
佐藤和子
曾根新五郎
加藤 武
西山逢美
横田澄江
星 王子
渡邊邦枝
古岡美恵子
岡田由紀子
武田恒子
高木俊明
松浦泰子
三瓶紀子
数山篤子
篠原勝子
公江耀子

神奈川県茅ヶ崎市
福島県須賀川市
茨城県常陸太田市
神奈川県伊勢原市
東京都新島村
埼玉県狭山市
福島県いわき市
神奈川県横浜市
福島県いわき市
福島県いわき市
千葉県市川市
福島県いわき市
福島県いわき市
福島県いわき市
神奈川県横須賀市
福島県須賀川市
東京都足立区
茨城県北茨城市
兵庫県神戸市

小川晴子先生選

海の俳句 特選

沈む日や卯波の沖を朱に染め
卯浪蹴り船次ぎ次ぎと湾離る
総身にいわきの息吹卯波立つ

海の俳句 入選

本殿は海に開きて茅の輪かな
満月は勿来の海に生まれけり
いわき浜良夜の海の波の音
春潮の満ち干にたのむ鎮魂歌
三月の別れと出会ひ定期船
会津弁喋り浜っ子卒業す
海に溶け空へと還る時雨かな
九年目の海静かなり鳥帰る
春潮の渚に休む神事馬
神々の大きくめくる春の海
潮の目の変る海峡夏に入る
潮騒の子守唄なるいわきの子
手渡せる海を明日を子供の日
水揚げの光重たき秋刀魚かな
復興の証し数増す牡蠣筏
浦風に梳かれし髪や晶子の忌
アジサシの来て子育ての海辺かな

鈴木典子
佐々木澄子
佐藤瑛子

神奈川県川崎市
神奈川県横浜市
福島県いわき市

森 哲州
齋藤 稔
小坪ひろ子
水戸勇喜
春山武雄
野中憲子
川角由美子
佐藤次男
前田時余
西山逢美
藤岡美恵子
川田潔
吉田泰子
高橋きよ子
中牧 修
杉 美春
石田慶子

岡山県岡山市
栃木県矢板市
兵庫県神戸市
宮城県柴田町
千葉県野田市
福島県会津美里町
東京都葛飾区
福島県郡山市
石川県能美市
福島県いわき市
東京都世田谷区
神奈川県川崎市
神奈川県川崎市
東京都町田市
東京都練馬区
神奈川県相模原市
沖縄県那覇市

来る波に押され戻され浮輪の子
浜辺の譜歌う潮騒夏盛ん
潮騒の会話に混じる夏座敷

増田静江
永見徳代
武田恒子

東京都中央区
東京都台東区
福島県いわき市

自由句 特選

鳥帰る地球を軸に弧を描き
菊人形信義貫く城の空
コロナ禍や愛づる間もなく花は葉に

野中定代
中牧 修
山下清実

山梨県都留市
東京都練馬区
東京都世田谷区

自由句 入選

小春日や庭師の法被松に掛け
おかえりと母の声する夏カレー
向かう岸に届く水切り夏の川
大花火裾の乱れも気に掛けず
サラブレッド磨く少女の汗と息
相伝の鬼面に深き春の闇
山茶花の道直角に武家屋敷
分け入れば山ごと香る葛の花
風船や復興祝ふ駅ホーム
梅雨冷やグラスに鳴らす匙の音
釣瓶井のなごりの滑車柿若葉
空一枚風がめくって小鳥来る
くず繭の干され集落風匂ふ
予定なき夏至の一日を使いきる
飛天舞ふ塔を水面に春の湖
父の日や綴じのほづれし古き辞書
騎馬駆ける祭り懐し相馬晴れ
纜を受けとるをんな青葉風
水源の森ひぐらしの声に濡れ
碧空の青をあつむか桐の花

坂下澄子
舘健一郎
池田純子
片山直子
谷口直樹
伊賀和子
永島文江
赤松曙子
横田澄江
松本 芳
小宮和代
乾 佐伎
中村とき子
吉田忠正
中村佳津子
増田静江
佐々木澄子
高原貞夫
染井かしこ
桐山 甫

石川県珠洲市
茨城県常陸太田市
岡山県津山市
東京都目黒区
東京都青梅市
静岡県浜松市
神奈川県横浜市
東京都板橋区
神奈川県横浜市
宮城県仙台市
埼玉県狭山市
埼玉県戸田市
石川県金沢市
福島県いわき市
奈良県奈良市
東京都中央区
神奈川県横浜市
神奈川県横浜市
東京都江東区
福岡県芦屋町

鈴木正治先生選

海の俳句 特選

夏の海島より高き巨船ゆく
ヨット行く海一枚を切り分けて
鳥雲にサーファーは海傾けて

深井保男
赤松曙子
伊藤ユキ子

大阪府大阪市
東京都板橋区
福島県福島市

海の俳句 入選

いつせいに足投ぐ海女や磯かまど
原発忌遊具は潮に錆びしまま
潮風やテトラポッドに鹿尾菜干す
遅き日の汐満ちてくる雁木かな
春の海羊水のごとたゆたうて
語り部のごとく潮騒鳥雲に
五月照る海底あかり鮑剥ぐ
艦砲を受けし灯台子鹿鳴く
夏の浜宿のサンダル手に提げて
海見ゆる峠へ来たりななかまど
潮鳴りや人は寡黙に昆布干す
巡る夏防風林よ早よ育て

長橋すま子
大谷 巖
菊池孝也
水野加代
砂川 隆
大賀康男
伊藤ユキ子
曾根 満
中根栄子
田中久幸
松川洋酔
平田 栄

神奈川県川崎市
福島県福島市
大分県豊後大野市
埼玉県所沢市
栃木県宇都宮市
愛媛県新居浜市
福島県福島市
静岡県静岡市
埼玉県久喜市
東京都多摩市
東京都杉並区
福島県いわき市

盆舟をやさしき波に流しけり
影ふみつ行く砂浜や風光る
白南風や民宿の窓全開に
客船の去りし埠頭や春を惜しむ
沖をゆくタンカー八月十五日
鮑海士がはがはは笑ふ妻たちも
まつさらな航海日誌雲の峰
朝風や岩積むクレーン傾ぎては

児玉孝子
石井基予子
根本早苗
永瀬十悟
内田郁代
根本ますみ
内野義悠
四十住圭子

茨城県北茨城市
福島県いわき市
福島県いわき市
福島県須賀川市
千葉県柏市
福島県いわき市
埼玉県所沢市
石川県珠洲市

自由句 特選

緑愁や夢二好みに傘さして
背負嬰の後向きなり陽炎へる
母を蹴る逆子の胎児夏怒濤

伊藤ユキ子
門伝史会
佐藤朱夏

福島県福島市
神奈川県川崎市
福島県いわき市

自由句 入選

クレーンの働く空や鳥渡る
割烹着の紐しめ直す真砂女の忌
うらけし茶柱立ちて回し飲む
遺骨無き三月十一日の墓
残り鴨一羽にて声もたざりき
淋しさに爪を切るなり飛花落花
終バスへ急ぐコート襟立てて
梅雨冷やグラスに鳴らす匙の音
昭和の日なぞりてまろき妣の文字
黄砂降る鑑真廟の木漏日に
花降るや象のかたちのすべり台
蔭を剥く息子の歌ふカンツオーネ
レジ停止線は足形薄暑かな
マスクもはや季語にあらざり躑躅咲く
釣人に七尺の黙南風吹く
たわいない嘘ならよろし葱坊主
土用太郎水に注意と結ぶ文
村五戸の結ひの一般朴葉飯
母植えし庭の真中の百日紅
囀や夢は捨てたと言わないで

直井照男
長島久江
寅屋照夫
曾根新五郎
星 瑞枝
野中憲子
大谷 巖
松本 芳
佐藤昭二
曾根 満
芥川 卓
岡田由紀子
児玉孝子
星 雅樹
伊藤豊美
真保ユキ子
小杉郁子
貞廣一枝
田畑郁子
森田弘子

岐阜県高山市
神奈川県茅ヶ崎市
兵庫県神戸市
東京都新島村
福島県福島市
福島県会津美里町
福島県福島市
宮城県仙台市
東京都八王子市
静岡県静岡市
東京都港区
福島県いわき市
茨城県北茨城市
栃木県大田原市
東京都中央区
埼玉県鴻巣市
青森県弘前市
石川県珠洲市
福島県いわき市
埼玉県所沢市

水内慶太先生選

海の俳句 特選

復興のぞうきん強し桜咲く
舟揚場鹿尾菜びつしり干されをり
海士の子の海士の気を持ち生まれけり

鷹取瑞子
青山あじ子
根本ますみ

神奈川県伊勢原市
神奈川県鎌倉市
福島県いわき市

海の俳句 入選

灯源は鯨油なるなり青岬
きのふ海女けふは水仙売る少女
夏の大鯨は乳房持つ
義経の渡海伝説里おぼろ
遅き日の汐満ちてくる雁木かな

谷口智行
長島久江
今野金哉
笹原郁子
水野加代

三重県御浜町
神奈川県茅ヶ崎市
福島県福島市
青森県弘前市
埼玉県所沢市

漁師溜まり帰省子家業を継ぐ念ひ
朝刈りの和布を下ろす夫婦舟
桜鯛積み帰り来ぬ翁舟
遠泳の沖セシウムを蹴散らして
防潮堤越えて空ゆく紙風船
海の子に手をふる母の白日傘
春の波光の粒を包込み
舟入れて太陽拉ぐ蜃気楼
タンカーの影ゆっくと春の海
三陸鉄道全線復旧風光る
さくら貝人魚の涙かもしれぬ
夕焼や埋没林に海の層
俎板に海色眩し初鯉
海の日や実習船に万国旗
父よりの抜手伝ふる子のなくて

自由句 特選

退職の夫と麦踏むひと日かな
釣人に七尺の黙南風吹く
帰省子を待つや磯屋の幟旗

自由句 入選

福島に聖火足ぶみ夏を待つ
水没の村水没の白すみれ
海光を弾き返すや黄たんぼぼ
除染土の冷えて東北月煌煌
障泥打ち野馬追の馬急き立つる
新宿や人の波濤の消えて夏
揉む風に零さぬ花の力かな
残心に白梅の香弓道場
原発の遠くて近き滝ざくら
哀れかな咲きつ放しの水中花
この坂は蝶と行き交ふところなり
杣人の帰りを針に待つ岩魚
人消えてしろつめ草の野の光
炯炯と田水奔れり番雉子
溪流の飛沫の濡らす若楓
花筏鳥の胸より分かれをり
天道虫背に一点の光載せ
黒板に残る伝言花は葉に
厄年はもう無しラムネ鳴らし飲む
水音の昂ぶる飛沫溪若葉

森川光郎先生選

東郷 藍
前田時余
前田時余
高梨 裕
高梨 裕
大友康子
月城花風
成瀬真紀子
稲葉千代子
木村繁子
青木孝子
秋谷美智子
澤野多喜代
飛田キミ子
草野大作

小林あけみ
伊藤豊美
執行 香

松岡恵美子
曾根新五郎
関口義一
高梨 裕
岩崎武士
草部鶯宏
田中久幸
沢辺たけし
川上修一
菅谷貞夫
青山あじ子
永井信夫
前田貴美子
赤川雅彦
渡邊公之
浅野純子
高木俊明
松浦泰子
綱川恵子
鈴木達子

神奈川県川崎市
石川県能美市
石川県能美市
神奈川県伊勢原市
神奈川県伊勢原市
福島県塙町
東京都中野区
富山県射水市
福島県いわき市
福島県須賀川市
東京都杉並区
青森県青森市
三重県伊賀市
茨城県北茨城市
茨城県つくば市

千葉県酒々井町
東京都中央区
千葉県市川市

京都府舞鶴市
東京都新島村
茨城県高萩市
神奈川県伊勢原市
静岡県静岡市
東京都府中市
東京都多摩市
千葉県流山市
茨城県ひたちなか市
千葉県東庄町
神奈川県鎌倉市
茨城県土浦市
沖縄県那覇市
栃木県宇都宮市
栃木県宇都宮市
東京都杉並区
福島県いわき市
神奈川県横須賀市
千葉県柏市
兵庫県高砂市

海の俳句 特選

満月は勿来の海に生まれけり
ヨツト行く海一枚を切り分けて
夏海置きキャンバスは白いまま

海の俳句 入選

鯨鳴く日本列島一またぎ
白地着て防潮堤の影に入る
門火焚く海より父の帰るくる
朝顔は深海の色母の色
はじめての海鞆みちのくの味なりし
曇天の風待ち港つばめ飛ぶ
海の子に手をふる母の白日傘
夏蝶来一千キロの海越えて
海猫鳴けり沖に動かぬ油送船
母の日や沖の果てまで青く風ざ
タンカーの影ゆっくりと春の海
砂浜に遊ぶ夕焼まみれの子
ひじき干す民宿の庭いつぱいに
夏海や夫とブルーのシャツを着て
海月見てみるみな働いてみる時間
玫瑰や水脈一線に帰漁船
海日傘時計回りに動く影
父憶ふ目刺の腸の滋味思ふ
本閉ちてより短夜の波の音
遠き日の砂丘の広さパナマ帽

齋藤 稔
赤松曙子
染井かしこ

栃木県矢板市
東京都板橋区
東京都江東区

池田純子
鈴木恭子
持田敏朗
森加名恵
馬場菊子
小松温美
大友康子
小野 薫
真木朝実
柴田恵美子
稲葉千代子
山田ゆい子
小泉 喬
児玉明美
黒澤麻生子
飛田キミ子
岡田由紀子
吉田カイ
中條睦子
南 恵子

岡山県津山市
埼玉県越谷市
神奈川県横浜市
栃木県大田原市
群馬県前橋市
宮城県多賀城市
福島県塙町
愛知県尾張旭市
千葉県千葉市
兵庫県尼崎市
福島県いわき市
神奈川県愛川町
神奈川県秦野市
茨城県北茨城市
神奈川県横浜市
茨城県北茨城市
福島県いわき市
東京都稲城市
石川県金沢市
石川県金沢市

自由句 特選

手を繋ぐ下校の姉妹風光る
子と走る一本道や新樹光
いづくよりこのまぶしさを白てふてふ

自由句 入選

春暁や樹間にひらく鉦の刃
八十路には八十路の抱負春来る
祈るとき人はうつむく春の虹
雨の日は雨の句を詠み根深汁
水飲みに戻りくる猫涅槃の日
南瓜蒔く母の教えの型通り
切株に腰を預ける大花野
薔薇は散る光のままにわがままに
懐へ散りゆく花の重さかな
くず藪の干され集落風匂ふ
朝顔を蒔きふるさとに遠くをり
白雲を時々つかみ田草取る
人消えてしろつめ草の野の光
桃の香のふはと耳打ち話かな
春昼の影を突ついて試歩の道
夕日色に男働く春田かな
郭公の良く鳴く在宅勤務かな

納谷一光
森高さよこ
前田貴美子

福島県矢吹町
福島県いわき市
沖縄県那覇市

岡崎 翠
花土公子
鈴木恭子
永井茂代
野島乃里子
川田 潔
納谷一光
乾 佐伎
鈴木光子
中村とき子
成瀬真紀子
坂本正夫
前田貴美子
水島昌恵
小川明美
伊藤弘子
西牧トキ子

千葉県千葉市
東京都世田谷区
埼玉県越谷市
千葉県千葉市
東京都八王子市
神奈川県川崎市
福島県矢吹町
埼玉県戸田市
福島県いわき市
石川県金沢市
富山県射水市
千葉県香取市
沖縄県那覇市
埼玉県上尾市
静岡県静岡市
福島県いわき市
福島県鏡石町

ガラス戸に守宮逆さの夜更けかな
天道虫背に一点の光載せ
ちちははのこゑ遥かなり麦の秋

矢田康雄
高木俊明
原 道代

愛知県蒲郡市
福島県いわき市
香川県高松市